

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和7年3月24日				
聖隷放課後クラブはなえみ磐田						
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	1	9	宿題をする場所と遊ぶ場所を分けている。 クラスを分けて少人数の体制を取っている	長期休み等は午前から子どもが過ごす為、使用出来る部屋・スペースが限られてしまう。 ⇒地域の社会資源を活用する等、施設内での工夫とあわせて支援スペースの確保を行っていく。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	3	各クラスに担任を配置し、基準以上の人数を満たしている。	現状の基準は満たしているが、個別での対応が必要になった時の対応に苦慮する事がある。 ⇒個別での対応が必要な際は、事前に職員課で対応を考えたり、必要に応じてクラス間、事業所間で協力体制を築き、こどもの状態に合わせた環境をつくる。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	3	視覚支援を取り入れ、構造化を図っている。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	6	定期的に清掃を実施。こどもの人数や状況に応じて構造化した環境設定を曜日ごとに行っている。	利用人数が多い日は、空調が効きづらく、夏場が暑く感じる事がある。 ⇒ネッククーラー等の冷感グッズを活用を含めて対策を行っていく。 運動ができる場所がや部屋がもう少しあると良い。(長期休みはおおぞらが使えない為) ⇒室内でも可能な運動プログラムを考案したり、公園や体育館の外出など地域の社会資源を活用していく。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	2	個別支援計画の内容やこどもの様子や要望によって大人の見守りの基、対応している。	クールダウンをする部屋はあるが、体調不良のこどもが出た際等に会議等により使えないことがある。 ⇒部屋の空間の有効利用(パーテーションの使用や、療育道具を活用するなど工夫している)	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	1	目標参画システムを導入し実践している。 また、チーム内でも活動の翌日に申し送り時を行い、次の活動に繋がるよう打ち合わせを実施している。		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	保護者評価を毎年実施し、公表している。 また、行事等でアンケートを実施し内容を振り返り、次の活動の参考にしている。		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	4	上長と面談する機会が設けられている。	意見の職員全体共有にタイムラグが生じることがある。 ⇒職場会議で共有や議論する時間を議題として設け、全体で情報共有や検討する時間を設定する。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	2	今年度実施した。		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	1	月例勉強会や法人内研修、外部研修に参加し、職員の質の向上を図っている。	業務内でのスケジュール調整が難しいが、行える機会があると良い。 ⇒会議の方法等を工夫し、業務内で行える機会が増えるよう工夫していく。	
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	1	今年度支援プログラムを作成し、公表した。		
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10		保護者、子どもからニーズの聞き取りを実施し、現状の様子(家庭、学校、事業所)を分析し作成している。		
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		チーム内でカンファレンスを実施し、共有している。また、各担当者等も様子を共有して発達状況を踏まえた上で作成を行っている。		
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		チーム内でカンファレンスを実施し、共有している。		
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10		支援計画を作成する上でツールを用いながら、日々の記録の達成度合いをチェックシグラフ等に反映しながら確認している。		

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		個別支援計画に明記され実践している。	移行支援の内容がやや実践できていないと感じる。 ⇒児童発達支援事業からの移行児童については、放課後等デイサービスの体験会に参加して頂くなど、移行がスムーズになるよう工夫している。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	3	立案内容をこどものレベルに合わせた内容になっているかを会議内で確認し、検討を行っている。	相互で助言をし合う協力体制は築けているが、チームとして立案することが弱いと感じる。 ⇒朝の申し送りや、クラス会議前のコミュニケーションを充実させることで、全体（チーム）で考えられるよう工夫する
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		内容が似た活動でもねらい等を変えて、こどもの成長に合わせスモールステップで支援がなされるよう考案して実施している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		個別支援計画に沿った支援と集団療育活動を取り入れて実践している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	2	前日の申し送り後、当日の役割や流れについて確認を行っている。	会議等で職員が途中で抜けてしまい、上手く共有できないことがある。 ⇒事前に情報伝達ができるシートを活用し、共有する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	2	翌日に実施している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		日々の支援記録を基に達成度合いを確認し、個別支援計画の評価を行っている。	5領域の支援となったので、全ての支援計画の内容が把握して実践が難しくなってきた。 ⇒施設内勉強会等でアセスメント力の向上を図ることや、実践力の向上に努める。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	1		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	10		それぞれ、5領域の支援や個別支援計画の内容を基に活動プログラムを立案し、実践している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	1	活動の中で意思決定の機会を設けている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		児童発達支援管理責任者が参加している。 可能であれば担当職員も参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10		医療的ケア児は必要であれば、情報共有の会議を実施している。また、学校とサポート担当者会議を実施している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	3	気になった事があれば、送迎時に学校の先生に確認を行っている。	学校等のこどもの様子については保護者から充分聞き取りができていない。 ⇒個人情報保護の配慮をしたうえで、必要事項や聞き取りたい内容については保護者に確認をしていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	1	事業所内の児童発達支援事業所と情報共有を行っている。また、事前にサポート担当者会議で情報共有をする場合がある。	事業所外との施設では難しいと感じる事がある。 ⇒可能な限り、サポート担当者会議を開催する等、情報共有の機会を設けていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	3	移行ケースがある場合は提供している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	6	かみみあとの連携をしている。センター全体の合同研修は実施。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	5	地域を招いた行事に他放課後等デイサービスが参加したり、法人内で放課後等デイサービスと交流を行った。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8	2	管理者や児童発達支援管理責任者が出席している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		送迎時や面談時に様子を伝えたり、ご家庭や学校での様子を確認している。	ご自宅に送迎する職員と施設に残る職員で、接見できる保護者が限定的であり、職員全体で共通理解がもちにくい。 ⇒多くの職員が送迎業務できるよう調整し、情報の共有理解ができるよう工夫する。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	5	保護者が参加できる座談会や講演会を実施している。		

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		年度の始めに事業所説明会を設けて説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		契約前にインテークを実施したり、保護者の願いや子どもの思いを聞き取り、反映させて支援計画を製作している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10		年度の始めに事業所説明会を設けて説明を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		保護者から要望があればサポート担当会議や面談を実施している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	2	保護者座談会や兄弟児も参加可能な行事を開催している。 また、見学WEEKを実施し保護者に様子を見て貰う機会を設けている。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	2	ご意見の段階で対応するように心掛けている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	10		コドモンのアプリを使用し、お便りやお知らせ配信を行ったり、連絡を受けている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		必要に応じて視覚的な支援を取り入れたり、個別で再度お伝えする等対応を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10		ふれ合い動物園やびゅうあ祭りを開催し、地域の方を招待している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	1	基準上必要なBCP・防犯訓練・感染対応訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		防災・感染BCPを作成し、年2回ずつ訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9	1	年度始めに確認を行っている。（看護師の面談）	薬の変更があった際に、情報シートが受け取れていない場合がある。 ⇒薬の変更があった際に、情報シートを提示していただく事を事業所説明会等で周知する。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		年度初めに確認を行っている。（看護師・栄養士の面談）	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		安全対策委員会を設置し、その都度確認を行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	1	防災訓練の予定を知らせていたり、訓練の様子を写真で掲載している。緊急連絡シートを作成し、緊急時に連絡が取れるようにしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		事故報告書・ヒヤリハット報告書を作成し、対策を考え実施し、評価を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		虐待防止委員会の設置や、職場会議にて報告を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	1			